

なぜ遥か遠くまで

日本行きの飛行機に乗る直前に急に腹痛に襲われたり、トランジット先の韓国で3時間もたった一人で待たされたホアイさん。初めての日本にもかかわらず、着いた時にはもはや高揚した気持ちは失せていたそうです。

慣例として、技能実習生はまず管理組合へと足を運び、その後に受入先の会社へ向かいます。正式に仕事を始める前のセレモニーでは、組合に所属するベトナム人の先輩に加えて、ベトナム以外の国からの先輩方がいました。

「フィリピン人実習生のほとんどは、1年で帰国していました。周りを見渡してみると、1年と思っていた人がいつの間にか故郷へ帰っていて、私の場合は3年だから帰る日がいつになるのか知れたものじゃありません。他の実習生は飲んだり食ったりしていましたが、私は楽しくなくて涙が出るのを堪えられませんでした。当時、なぜこんな遠くまで来たものかと後悔しました。」

はじめの頃は、あまりうまく行かず・・・

日本へ来たての頃、ホアイさんは遠い異国の地という点に加えて、同じ職場の女性たちとの人間関係からくるプレッシャーに悩まされ、ストレスに陥ったそうです。

「朝起きて、プレッシャーのあまり食事中に吐き気を催すほどでした。所属する送り出し機関の日本支社に駐在するベトナム人スタッフ曰く、運がいい人はいい人に会えるもの。自分は運が悪かったけれども、周囲に惑わされずに家族のためにがんばれと励ましてくれました。」

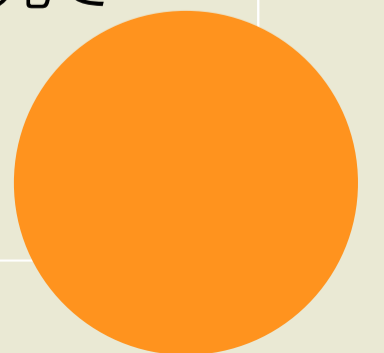
その後、受け入れ先の会社から解雇されたホアイさんはその駐在スタッフに相談し、別の組合を紹介してもらいました。「その人は私を迎えにきてくれて、転籍した方がいいと言いました。また、その人は、『大変なのはどこも同じ。ベトナムもしかし。でも、日本では稼ぎができる。ベトナムでも大変さは変わらないけど、日本ほど多くは稼げない』と言っていました。このフレーズは、今でも忘れません。」

新たな組合から紹介を受けたホアイさんは、いざ鹿児島県にある野菜栽培の会社へ。

「組合長から、鹿児島弁は聞き取るのが大変だと伺っていましたが、どのくらい難しいのか想像できませんでした。会社へ行くと社長から日本語能力試験のどのレベルを目指しているのかと聞かれたものの、そうとは聞き取れなくて、組合の女性が再度言い直してくれて、やっと分かりました。

「鹿児島に来て始めの頃はもう大変。土地の人たちが使うのは方言ですし、おまけに早口で話すのには困り果てました。私よりも前に来た実習生は慣れたもので、しっかり方言を聞きとれます。作業を割り当てられて、実習生たちは「はい!」と言って仕事にとりかかるのに、その場に立っているのは私だけ。何を言っているのか分からないし、何も出来なくて歯がゆい思いをしました。」

そのような訳で、一生懸命日本語を勉強することに決めて、帰宅してから3、4時間ほどを学習に充てました。私以外のベトナム人がここへ来たのは、私が来てから9ヶ月経った頃でした。」





鹿児島でのワークライフを謳歌

「鹿児島の気候は暑く、付近には桜島火山があります。火山が噴火すると、手に持っている野菜にまでほこりや灰が飛んできます。当時は、勤務先の会社が地元の方から家を借りて社員寮にしていました。寮の隣に小さな庭があったので、友人と野菜やお花を育てることにしました。近所にコメリというお店があって、いろんな品種の植物を扱っていて、よくお買い物に行きました。

午後には、ビーチヘジョギングに行ったりして、そこで運動するおばさま方と楽しくおしゃべりすることもありました。」



ホアイさんの鹿児島滞在中に、人々との交流やベトナムの文化を紹介する思いがけない機会が訪れました。

「私の職場では、秋のお祭りに野菜を売る催しを企画して、私たち実習生も一緒に参加しました。そこで、日本人男性とおしゃべりしたのですが、実はその方は小学校の校長先生だと分かりました。それから2年後、その方から、私たち実習生を招いて児童にベトナムの文化を教えて欲しいと勤務先の社長にお話がありました。そして、児童たちは私たちの話を一生懸命聞いてくれました。交流セッションに入る前に、私たちは外国人なので日本語は上手ではないですからと、校長先生が事前に児童側へ伝えていたのですが、ある児童が話すスピードは笑ってしまうほどゆっくりでした。そのイベントが終わってからも、道端で児童を見かけると覚えてくれていて、私たちに挨拶してくれたり、とっても愛らしかったです。

「3年間の実習を終えてベトナムへ帰ることになった時、組合の先生方がお見送りの挨拶に来てくださいました。来たばかりの頃は、自信が無くて不安げだったのに、今ではすっかり様子が変わったねと言われました。組合長とは今も連絡を取り合っていて、私がハノイで働いていたときは、組合長がベトナムへ来るたびにハノイでお会いしていました。」



現在のお仕事

現在、ホアイさんはナムディン省に拠点を置く送り出し機関でご活躍中です。多くのスタッフが配置されている訳ではないため、日本語教育の統括に加えて、日本側から出される求人の候補者探しも担っています。

「今では学生に教える立場にありますが、学生には耳が聞こえない状況を思い浮かべるよう言い聞かせています。日本へ行って日本語が分からないのも同じこと。相手の言っていることが分からない、何を言っているのか分かってもらえなかったらどうしますか、と。

学生に教えていく中で、日本の会社で日本人と働く上で必要なマナーを学生たちが身につけるトレーニングをどのようにすべきかと、社長と計画中です。例えば、遅刻しない、理由なしに仕事を休まない、制服はきちんと着る、規則を守ることなどです。」

あなたへのヒント

ご自身の経験から学んだ、指示されたタスクを復唱する習慣

ある時、天候がよければしばらくここで草むしりを続けて、それが終わったら玉ねぎを切り、雨が降った場合は玉ねぎを切りに行くようマネージャーから指示を受けました。でも、私は玉ねぎを切りに行くのだと、またしても誤解してしまい、私たち実習生グループは車に乗り込みました。行き先へ向かう途中、ドライバーさんは私がモヤモヤしているのを見かねてマネージャーに電話で確認したところ、私の理解が間違っていたことがわかりました。結局、来た道を引き返すことになりました。

分からないならそう伝えるべきで、自分の理解が正しいかどうか、もう一度確認した方がよいと改めて思いました。指示されたことを再度確認することを、組合で学びました。そこでは、朝になると皿洗いや布団干しなど、実習生ごとに仕事を割り振られ、私たち実習生は指示されたことを復唱しなければなりません。「ホアイさん、部屋を掃除してください」、と指示が飛ぶと、確認の意味で私から「先生、掃除をしますか」と復唱するという具合に。

日本へ行って、沢山のことを学びました。来日して1年で考え方がすっかり変わりました。明るく前向きに生きていくと、良い出来事に引き寄せられるものだって。以前勤めた会社では、他人の機嫌を気にし過ぎるあまり憂鬱になって塞ぎ込んでしまい、負の連鎖が続きました。少しでも前向きに生きていくと、幸運が舞い降りてくるのだと実感しました。

私は仕事のやり方や勉強方法についても知っているつもりです。目標を立てたら、その目標を小単位に分けて少しずつ実行していきます。今でもよく自分に課すようにしています。例えば、21日間日本語会話を練習するとしたら、日本語を話す動画を撮る、日本語の文章を読み、翻訳の練習を毎日欠かさずやるというように。

優良とされる送り出し機関に出会うにはどうすればよいと思いますか？

評価項目は幾つかあると思います。日本側から求人を受けた時は、給料が高く福利厚生がしっかりしているかどうか、そこで働く社員さんの様子などがあるかだと思います。

募集時:求人内容がはっきりと書かれていて、実際に支払う手数料は事前相談時の提示額から割増されていないこと。募集・面接対策・書類提出に至るプロセスが明瞭であること。カウンターパートはしっかりした人であるべきで、相談時に正しく情報を伝えてくれない人や高額な手数料を請求するような人は避けた方がよいでしょう。

訓練時:日本語の知識に限らず、外国人が日本で生活するにあたって仕事以外の場面で必要な知識、日本の会社で働く上で守るべきルールや習慣を教えてもらえることも欠かせません。

提出書類は、正直に漏れなく記入します。多くの送り出し機関では、実習生を大卒と申告しないので、そうすると自分が後日、エンジニアとして再び戻ってくることができなくなってしまいます。送り出し機関は、実習生から提出された書類の原本を出国前に実習生に返却するか、保管した上で実習生が必要な時に返却すべきです。これはとても大切な書類で、というのは留学や特定技能資格で再び日本へ行く際に情報の整合性が問われるからです。送り出し機関が書類を返却しないと、実習生はお金を払って日本で弁護士を雇うか、再び日本へ行けなくなってしまいます。

出国時:日本に滞在する全期間において、実習生のケアや励まし、問題が起きたら解決に向けた迅速なサポートを行ってもらえること

ガイダンス:技能実習終了後、日本での長期滞在に足りる日本語の習得や転職支援、特定技能への切り替えなどのニーズに応じたガイダンスが行われること

受け入れ先の会社から解雇された上、新たに職探しをする際に組合のサポートが得られなかったとのお話がありました。もし同じような状況に遭ったら、ホアイさんならどうされますか？

良くない会社の多くは圧力をかけてくるように思います。おかしいことをしているのはどうみても向こう側なのに、こちらが正そうしても容れられないので言い返したり、逃げ出したりしないように自制を余儀なくされることもありました。

とにかく、所属先の送り出し機関へ一報して助けを求めることです。私の場合は、親切な日本駐在スタッフに出会えたラッキーなケースです。別の組合を探してくれましたし、その人のおかげで新しい仕事にありつくことができました。今後は実習生の立場や権利が今まで以上に守られるような環境が必要だと思います。今でも、好まれない人材を突然解雇してしまうような残念な会社もあります。実習生の側から雇用契約を破棄すると、多額のお金を失うことになります。

